

令和6年度公募課題一覧

○継続研究

重点課題研究

- 1：特別支援教育に係る教育課程の基準等に関する研究（令和5～7年度）
- 2：多様な教育的ニーズのある子供の学びの場の充実に関する研究（令和5～7年度）
- 3：共生社会の担い手を育む教育に関する研究－障害理解教育の検討を中心に－
（令和5～7年度）

障害種別特定研究

- 4：肢体不自由教育におけるICTの活用に関する研究（令和5～7年度）

○令和6年度開始研究

重点課題研究

- 1：障害のある子どものキャリア教育の充実に関する研究（仮題）（令和6～7年度）

○継続研究

重点課題研究

- 1：特別支援教育に係る教育課程の基準等に関する研究（令和5～7年度）

【研究概要】

学習指導要領については、学校や子供の実態等に応じて教育課程が適切に編成されるよう改善が図られてきた。一方で、知的障害者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の各教科の在り方などの持ち越された論点もある。

本研究では、過去の検討過程で検討された論点や現行学習指導要領に基づいて編成される教育課程の編成・実施・評価・改善などの状況から論点となりうるものなどを整理し、それらの実践事例があればそれを整理・分析する。また、それぞれの論点について、実現することで達成される教育的効果や実施するための諸条件等を整理するとともに、学習指導要領における記載の在り方等を整理することにより、次期学習指導要領改訂のための検討に必要な知見を提供する。

【令和6年度特別研究員（地域連携型）に期待される研究活動】

活動概要

次期学習指導要領の改訂に向けた論点の整理に向けて、自治体における特別支援学校等のそれぞれの学校種や、特別支援学級、通級による指導等の学びの場ごとの教育課程の編成・実施・評価・改善等の課題についての情報収集等を行う。

活動内容の例

- ・ 研究職員と共に先行研究についての調査・分析する。
- ・ 研究職員と共に実地調査等の調査項目の検討や実地調査を実施する。
- ・ 研究職員と共に研究テーマに関連した事例や先進的な取組を行っている学校の情報収集を行い、得た情報について整理を行う。
- ・ 研究職員とともに研究協力者とのオンライン会議や研究協議会に出席する。

(別添 公募課題一覧)

2：多様な教育的ニーズのある子供の学びの場の充実に関する研究（令和5～7年度）

【研究概要】

本研究では、インクルーシブ教育システムの構築の具現化を見据え、小中学校等（義務教育段階）の通常の学級に在籍する多様な教育的ニーズのある子供への指導・支援について、各学校がどのようにして学級経営や授業、校内支援体制を充実させているかを明らかにし、今後の国や自治体の施策展開や、学校現場で活用できる資料を提供する。

具体的には、文部科学省による有識者会議の報告、先行研究、文献、海外の取組等を参考に、小中学校等において、多様な教育的ニーズのある子供の学びの充実を図る実践に関する情報収集を行う。その結果から、他の地域の参考となる取組をしている自治体や学校の実践について、地域性や人口規模等を踏まえた体制づくりや、指導・支援等の充実に関する好事例を抽出し、資料としてまとめる。

【令和6年度特別研究員（地域連携型）に期待される研究活動】

活動概要

所属校及び所属地域における多様な教育的ニーズのある子供への指導・支援の現状と課題を把握し、該当する子供の「連続性のある多様な学びの場の活用」及び「学びの充実」について事例研究を行う。また、先進的な取組を行う自治体に訪問等を行い、課題解決に向けた情報を収集する。

活動内容の例

- 多様な教育的ニーズのある子供の「学びの場の活用」及び「学びの充実」等について現状や課題等を把握し、課題解決に向けた検討を行う。このために研究職員と共に次のような活動をする。

※所属校及び所属地域における現状と課題等の把握、課題解決に向けた検討

※本研究の研究協力機関等への訪問やオンライン会議、研究協議会、学会等への参加

※研究テーマに基づいた事例研究を行う。

※先進的な取組を行っている学校の情報収集・整理

3：共生社会の担い手を育む教育に関する研究－障害理解教育の検討を中心に－（令和5～7年度）

【研究概要】

私たちが目指す社会は「共生社会」である。共生社会の形成に向けて、子どもたちが10年後、20年後に、「共生社会の担い手」となるための教育活動を展開する必要がある。

本研究は、小・中学校の通常の学級において、多様性を理解し尊重できるようになるための教育、つまり、「共生社会の担い手を育む教育」について、具体的な内容、方法を検討し、教育現場に提供することを目的とする。目的達成に向け、現在、小・中学校の通常の学級で実施されている障害理解教育に関する情報収集と検討を行うことを中心とし、併せて、日常の授業や学級経営において行われている多様性を尊重し理解するための実践についても情報収集と検討を実施する。

それらを踏まえ、小・中学校の通常の学級で実施可能なモデルを作成し、その妥当性を検討する。作成するモデルでは、実際の事例を示しながら内容を説明し、小・中学校の通常の学級の教師が、「共生社会の担い手を育む教育」を実施する必要性を理解でき、「自分

(別添 公募課題一覧)

の学級でも実施してみたい」、「実施してよかった」と実感できるものを目指す。また、次期改訂に向け、学習指導要領等における障害理解教育の記載の在り方についても検討する。

【令和6年度特別研究員（地域連携型）に期待される研究活動】

活動概要

「共生社会の担い手を育む教育」について、現在、小・中学校の通常の学級で実施されている障害理解教育、日常の授業や学級経営において行われている多様性を尊重し理解するための実践について、学校訪問により情報収集及び検討を行う。また、特別支援学校が地域の小・中学校を対象に実施している障害理解教育の取組について、質問紙調査及び訪問調査を行う。

活動内容の例

- ・ 研究職員とともに上記の取組を実施している学校に訪問し、情報収集及び検討を行う。
- ・ 所属校又は所属地域における上記の取組に関わる現状と課題等の把握、課題解決に向けた検討を行う。
- ・ 研究職員とともに研究協力者及び研究協力機関とのオンライン会議や研究協議会に出席する。

障害種別特定研究

4：肢体不自由教育におけるICTの活用に関する研究（令和5～7年度）

【研究概要】

肢体不自由教育においては、これまでも障害特性から身体の動きや意思の表出の状態等に応じて適切な補助具や補助的手段を工夫するとともに、コンピュータ等のICT機器などを活用した指導が展開されてきた。GIGAスクール構想においては、ICT機器の活用が障害特性の配慮に留まることなく、資質・能力の育成との関係から効果的な活用の在り方を追究するとともに、教師の指導力向上を図ることが求められている。また、障害のある子供たちの自立と社会参加に向けて、学校教育を通じて身に付けた力を活用し、もてる力を最大限伸ばすことができるように取り組むことが重要である。

そこで本研究では、肢体不自由の障害特性を踏まえながら学習指導要領に示される資質・能力の育成を目指したICT機器を活用した各教科等における授業に焦点をあて、効果的な指導方法や教材教具の活用、それを支える教員研修に係る情報を収集する。そして、それぞれの取組の成果や効果、課題等を整理して、地方自治体や教育現場の取組に役立つ知見を提供する。

【令和6年度特別研究員（地域連携型）に期待される研究活動】

活動概要

主として、研究協力機関（特別支援学校）において、訪問調査やICT活用を推進する実践研究を行う。

活動内容の例

- ・ 研究職員と共に、研究協力機関においてICT活用に関する実地調査と授業改善に係る実践研究に参画する。

(別添 公募課題一覧)

- ・ 研究職員と共に学校現場等で情報収集を行い、得た情報について整理を行う。
- ・ 肢体不自由教育における ICT の活用に関する実践事例集等の作成に向けて、活用しやすい構成や掲載する事例の選定と掲載内容等について、教員の立場から提案する。
- ・ 研究職員と共に研究協力者及び研究協力機関とのオンライン会議や研究協議会に出席する。

○令和6年度開始研究

重点課題研究

1：障害のある子どものキャリア教育の充実にに関する研究（仮題）（令和6～7年度）

【研究概要】

2019年の文部科学省事務連絡を踏まえ、キャリア・パスポートの作成がスタートし、障害のある子供のキャリア・パスポートの活用の充実が期待されている。

本研究では、各特別支援学校におけるキャリア・パスポートの活用にあたっての個別の教育支援計画や個別の指導計画との関連性等について調査した上で、事例を収集し、現状と課題の分析及び、キャリア・パスポートの活用が推進される条件等を整理する。この結果を次期学習指導要領で示すことが期待される事項の提案を含め、国の政策形成の際の検討資料として提供する。

令和6年度開始研究については現在計画作成中のため仮題としています。そのため、活動内容のみについて、例を以下のように記載いたします。

活動内容の例

- ・ 研究職員と共に先行研究についての調査・分析する
- ・ 研究職員と共に実地調査等の調査項目の検討や実地調査の実施する
- ・ 研究職員と共に研究テーマに関連した事例や先進的な取組を行っている学校の情報収集を行い、得た情報について整理を行う
- ・ 特別研究員の所属校等や属する地域における研究テーマに関連する情報収集・提供
- ・ 研究職員と共に研究協力機関の訪問や、研究協力者とのオンライン会議、令和5年度中に開催予定の研究協議会への出席する
- ・ 障害のある児童生徒への支援に関するガイドブックに掲載する事例の選定と掲載内容について、教員の立場から提案する。